

水稲用初・中期一発処理除草剤

ゼータプラス®

1キロ粒剤

雑草へ、
猛突進。

オモダカ
クログワイ コウキヤガラ



本剤は(公財)日本植物調節剤研究協会での
A1S区分:難防除雑草一発処理(オモダカ・ク
ログワイ・コウキヤガラ)で判定を取得しています。



エフィーダ®配合
問題雑草に広く効く!!

2
成分

ノビエ
4
葉期

田植
同時



ノビエ



ホタルイ



クログワイ



オモダカ



コナギ



イボクサ



ミズアオイ

水稲用初・中期一発処理除草剤

有効成分
フェンキノトリオン…3.0%
プロピリスルフロン…0.90%
除草剤分類 27,2

ゼータプラス[®]1キロ粒剤



- ◆ 2成分の一発処理除草剤（フェンキノトリオン、プロピリスルフロン）
- ◆ 高葉齢のノビエ（4葉期）を始めSU抵抗性雑草に優れた効果
- ◆ 多年生難防除雑草オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに高い効果

適用と使用方法

2024年3月現在の登録内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草、 エゾノサヤヌカグサ	移植時	1kg/10a	1回	田植同時 散布機で施用
		移植直後～ノビエ4葉期 ただし、 収穫60日前まで			湛水散布 又は 無人航空機に よる散布
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類 による表層はく離	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、 収穫60日前まで			

フェンキノトリオンを含む農薬の総使用回数
2回以内

プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
2回以内

主要雑草に対する使用適期

ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ	3葉期まで
ミズガヤツリ	草丈25cm以下まで
ヒルムシロ	発生盛期まで
セリ	再生期まで
エゾノサヤヌカグサ	発生始期まで
オモダカ	発生前からヘラ葉期まで
クログワイ	発生前から 草丈10cm以下まで
コウキヤガラ	発生前から 草丈35cm以下まで
シズイ	草丈3cm以下まで



本剤は（公財）日本植物調節剤研究協会でのA-1S区分：難防除雑草一発処理（オモダカ・クログワイ・コウキヤガラ）で判定を取得しています。

上手な使い方〔散布量／10a当り1kg（1袋）〕

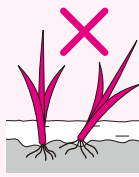
均平化作業・植付けはていねいに！

田面が凹凸していると薬剤が均一に広がらず、効果不良・薬害の原因になることがあります。



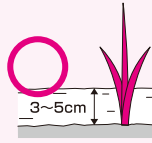
移植深度は適正に！

極端な浅植では根が露出し薬害原因となります。根部が土壌中に隠れるよう、適正な移植深度に田植機を設定してください。



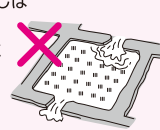
散布時の注意！

散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）で散布してください。また、極端な浅水や深水での使用はさけてください。



散布後の注意！

散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は、落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。



使用上の注意事項

- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの4葉期までに時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにしてください。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）で、まきむらが生じないように均一に散布してください。また、極端な浅水や深水での使用はさけてください。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
- 苗の植え付けが均一になるよう、代かき、均平化および植付作業はていねいに行ってください。未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行ってください。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
 - ① 砂質土壌の水田および漏水の大きな水田（減水深が2cm／日以上）。
 - ② 軟弱な苗を移植した水田。 ③ 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - ① 散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ② 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
 - ③ 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整してください。
 - ④ 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からは場内に散布してください。

- ⑤ 水源地、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意してください。
- 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさけてください。
- 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用してください。
- 散布田の田面水を他の作物に灌水しないでください。
- その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 前処理剤との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないように適期に散布してください。
- 使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用時にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

06R3C24Z39:ZS

2024年3月作成

農薬・肥料に関する
総合情報サイト「i-農力」や
各種SNSはこちら



〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号
お客様相談室 0570-058-669
(または ☎03-6630-3322)